

全国初「JICA 海外協力隊(科学技術協力隊)」覚書締結

～JICA と京都大学、メキシコとタイにおける科学技術力向上を支援～

独立行政法人国際協力機構 関西センター(JICA 関西)と京都大学防災研究所および京都大学大学院総合生存学館は3月12日(木)に、メキシコ及びタイにおける科学技術力向上を現地関係機関と共同で推進するため、全国初となるJICA海外協力隊(科学技術協力隊)に係る覚書を締結します。

本覚書に基づき、「JICA 海外協力隊」の一貫として2025年度に新設した「科学技術協力隊」としては第1号となる隊員を8月に派遣予定です。ぜひ、この機会に取材・報道ください。

・「JICA 海外協力隊」は2025年に60周年を迎えました。この節目の年に、日本の若手研究者を開発途上国の研究機関に派遣し、現地研究者との共同研究等を行う「科学技術協力隊」を新設。開発途上国の科学技術力の向上に加え、日本の研究機関の更なる国際化や日本人若手研究者の研究力強化も目的としています。

・京都大学防災研究所はメキシコ国立防災センターに、京都大学大学院総合生存学館はタイのチュラーロンコーン大学に、それぞれ若手研究者をJICA海外協力隊員として派遣します。現地では、メキシコの地震災害リスク軽減分野やタイの農業環境分野において、現地研究者とともに研究・助言を行います。派遣を通じて、開発途上国の課題解決およびODAにおける科学技術協力をリードする人材育成への貢献が期待されます。

【覚書署名式 概要】※当日の取材に加え、事後取材も可能です。

・日時：2026年3月12日（木）14時30分～

※3月6日版の曜日が（火）となっており、誤りがありましたので訂正いたします。

・場所：京都大学 吉田キャンパス（京都府京都市左京区吉田本町）

・出席者（予定）

JICA側：広沢 正行関西センター所長、増古 恵都子青年海外協力隊事務局次長

京都大学側：河野 泰之 国際戦略本部長、縄田 栄治 ASEAN 拠点所長（オンライン参加）

平島 崇男 大学院教育支援機構長、堀 智晴 防災研究所長

村上 章 総合生存学館長

【本件に関する問い合わせ先】

JICA 関西 市民参加協力課/TEL:078-261-0384

【参考】**■ JICA 海外協力隊について**

JICA 海外協力隊は、日本政府の ODA 予算により独立行政法人国際協力機構（JICA）が実施する事業です。開発途上国からの要請（ニーズ）に基づき、その国の課題解決に必要な技術・知識・経験を持ち、「開発途上国の人々のために生かしたい」と望む方を募集し、選考、訓練を経て派遣します。1965 年に、ラオス・カンボジア・マレーシア・フィリピン・ケニアの 5 か国に 29 名を派遣し、2025 年に 60 周年を迎えました。これまでの累計派遣者数は約 58,000 人、派遣国は 99 か国に上ります。

■ JICA 海外協力隊（科学技術協力隊）について

科学技術協力隊は、JICA 海外協力隊 60 周年を機に JICA が進める新たな取り組みで、日本の若手研究者を開発途上国の研究機関に派遣し、現地研究者とともに共同研究等を行う制度です。研究者間の国際的な協働を促進し、ひいては知見や人材が往来する国際頭脳循環を後押しし、日本の研究機関の更なる国際化や日本人若手研究者の研究能力向上を目的としています。

京都大学からは、全国初の科学技術協力隊として、「大学院総合生存学館（タイ）」および「防災研究所（メキシコ）」の 2 案件が同時に採択され、今回覚書が締結されます。

■ 独立行政法人国際協力機構（JICA）について

JICA は、開発途上国が直面する課題解決のため、技術協力、有償資金協力、無償資金協力など日本の政府開発援助（ODA）を一元的に担う二国間援助の実施機関であり、150 以上の国と地域で事業を展開しています。国際社会の課題は日本とも密接に関係しています。JICA は国内外の多様なパートナーと協力してそれらの解決に取り組み、世界の平和と繁栄、日本社会の更なる発展に貢献します。

詳しくは JICA ウェブサイト (<https://www.jica.go.jp/index.html>) をご覧ください。